

講話 「小学校における外国語活動」

岡山市総合教育センター
指導主任 藤原 陽子



小学校における外国語活動

1 小学校外国語活動について

- ・ 外国語活動新設の経緯
- ・ 目標
- ・ 内容
- ・ 指導計画の作成と内容の取扱い

2 小学校外国語活動の目標・内容を実現するために

- ・ 小学校外国語活動の指導者に求められる力
- ・ 英語ノート・付属CD・指導資料等について
- ・ 岡山市の取組から

外国語活動新設の経緯(1)

昭和61年4月 臨時教育審議会 教育改革に関する第二次答申
「外国語教育の見直し 英語教育の開始時期検討」



平成8年7月 中央教育審議会 第一次答申
「小学校における外国語教育については、……国際理解教育の一環として、……地域や学校の実態等に応じて、英会話等に触れる機会や外国の生活・文化に慣れ親しむ機会を持たせることができるようにする。」



平成10年 改訂学習指導要領 総合的な学習の時間の取り扱いの一項目
「国際理解に関する学習の一環として外国語会話等を行うときは、学校の実態等に応じ、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習が行われるようにすること」

外国語活動新設の経緯(2)

平成14年7月 「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」
小学校英語活動実施状況調査…平成15年度 全国約88%の小学校で英語活動



平成18年3月 中央教育審議会外国語専門部会
「高学年において、年間35単位時間程度、共通の教育内容設定を検討する必要」



平成20年1月 中央教育審議会 答申 外国語活動新設
「総合的な学習の時間とは別に高学年において、年間35単位時間、週一コマ相当確保することが適当」



平成20年3月 小学校学習指導要領改訂 小学校第5・6学年に外国語活動

小学校学習指導要領

第4章 外国語活動 第1 目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

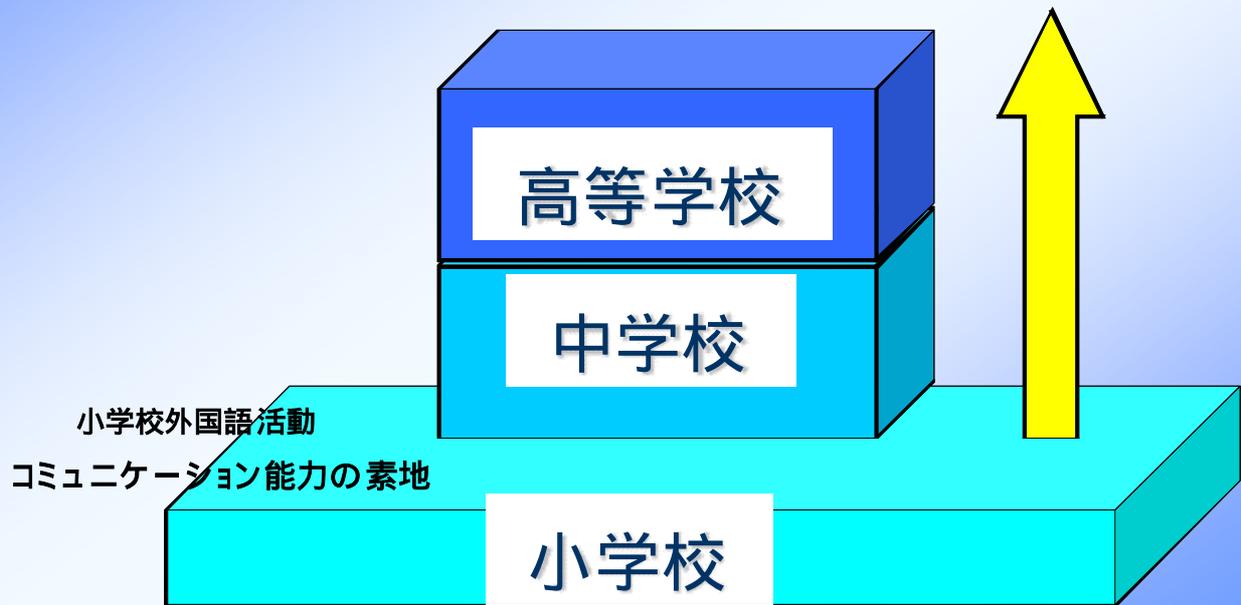
目標の3つの柱

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。

外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

コミュニケーション能力の育成



内 容

第5学年及び第6学年

- 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図るための内容
- 2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めるための内容

内 容

第5学年及び第6学年

1 コミュニケーションに関する事項

- (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

内 容

第5学年及び第6学年

2 言語と文化に関する事項

- (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
- (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
- (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

指導計画作成に当たっての配慮事項

- (1) 外国語活動においては、原則英語を取り扱うこと。
- (2) 学年ごとの目標を適切に設定。
- (3) 言語や文化に関する指導は、コミュニケーションに関する内容との関連を図ること。その際、体験的な理解を図ること。
- (4) 他教科等で児童が学習したことを活用する工夫。
- (5) 指導計画作成や授業の実施は、学級担任又は外国語活動担当教師。授業の実施は、ネイティブ・スピーカー・地域人材を活用して指導体制の充実を図ること。
- (6) 児童・学校・地域の実態を考慮の上、視聴覚教材を積極的に活用すること。
- (7) 道徳の時間などとの関連を考慮し、適切な指導をすること。

内容の取り扱いについて

2 学年間を通した配慮事項

- ア 児童の発達段階を考慮した表現の使用。
児童にとって身近なコミュニケーションの場面の設定。
- イ 音声面を中心。文字や単語の扱いは、音声によるコミュニケーションの補助として使用。
- ウ ジェスチャーなど、言葉によらないコミュニケーションの手段の役割の理解。
- エ 国語や我が国の文化についての理解。
- オ コミュニケーションの場面や働きの具体例。

内容の取り扱いについて

2学年間を通した配慮事項

コミュニケーションの場面の例

(ア) 特有の表現がよく使われる場面

- ・ あいさつ
- ・ 自己紹介
- ・ 買い物
- ・ 食事
- ・ 道案内 など

(イ) 児童の身近な暮らしにかかわる場面

- ・ 家庭での生活
- ・ 学校での学習や活動
- ・ 地域の行事
- ・ 子どもの遊び など

内容の取り扱いについて

2学年間を通した配慮事項

コミュニケーションの働きの例

(ア) 相手との関係を円滑にする

(イ) 気持ちを伝える

(ウ) 事実を伝える

(エ) 考えや意図を伝える

(オ) 相手の行動を促す

内容の取り扱いについて

各学年における配慮事項

ア 第5学年における活動

外国語を初めて学習することに配慮し、児童に身近で基本的な表現を使いながら、外国語に慣れ親しむ活動や児童の日常生活や学校生活にかかわる活動を行うようにすること。

イ 第6学年における活動

第5学年の学習を基礎として、友達とのかかわりを大切にしながら、児童の日常生活や学校生活に加え、国際理解にかかわる交流等を含んだ体験的なコミュニケーション活動を行うようにすること。

小学校外国語活動の目標・内容を実現するために

小学校外国語活動の指導者に求められる力

児童の発達段階を踏まえ、興味・関心を抱くような学習内容と活動を設定できること

積極的にコミュニケーションを図ろうという気持ちを起こさせることができること

英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることができること

学級担任の役割

設計

児童の興味・関心に基づいて指導計画を立て、指導内容や活動を考える

ALT等と協力して教材や教具を準備する。

実施

ALT等や児童に指示を出し、授業を掌握し、進行する。

児童と一緒に活動に参加し、外国語を使うことに積極的な姿勢を見せる。

児童のつまずきに気付き、適切な支援をする。

評価

主に、児童の積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする関心・意欲・態度や国際理解の面についても評価する。

英語ノート・付属CD・指導資料について

- ・国が共通教材として作成・配布
- ・学習指導要領の目標・内容に則って作成

英語ノート(試作版)第6学年 Lesson9

「将来の夢を紹介しよう」

本単元の目標

- 1 様々な職業の言い方に興味を持つ。
- 2 積極的に自分の将来の夢について、理由を含めて紹介したり、友だちの夢を聞き取ったりする。
- 3 どんな職業につきたいか尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。

英語ノート(試作版)第6学年 Lesson9

「将来の夢を紹介しよう」

本単元の内容

主としてコミュニケーションに関すること

- ・将来つきたい職業とその理由をスピーチしたり、友達のス
ピーチを聞いたりして、自分の思いを伝え合うことの楽しさを
体験すること。
- ・積極的に友達に将来つきたい職業を尋ねたり、答えたりする
こと。
- ・スピーチで自分の思いを伝えることの大切さを知ること。

英語ノート(試作版)第6学年 Lesson 9

「将来の夢を紹介しよう」

本単元の内容

主として文化や言語に関すること

- ・将来つきたい職業を聞いたり話したりしながら、英語の音声やリズムに慣れ親しむこと。
- ・性別によって職業名に違いがあることや、男女両性に使用できる言葉があることなど、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
- ・ALTや異なる文化を持つ人々と将来の夢について紹介し合い、文化等に対する理解を深めること。

岡山市の取組から

小学校外国語活動中核教員研修の実施

中学校への円滑な接続のために

参考資料

- ・「小学校学習指導要領(平成20年3月告示)」(文部科学省)
- ・「小学校学習指導要領解説 外国語活動編(平成20年8月)」(文部科学省)
- ・「小学校外国語活動研修ガイドブック」(文部科学省)
- ・「英語ノート(試作版)指導資料」(文部科学省)
- ・平成20年度岡山県教育委員会新教育課程説明会説明資料
- ・平成20年度岡山市教育委員会新教育課程説明会説明資料

平成20年11月27日

岡山市教育委員会

